

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	らいおんハートからだの児童デイサービス大和（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2026年2月3日		～ 2026年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2026年2月3日		～ 2026年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な専門性を持つ職員が 支援に関わる事ができる体制作り	保育士、児童指導員、看護師、言語聴覚士が在籍している。 事で多様な視点による支援が提供する事ができます。 事業所内のケース会議やモニタリングでは職員個々の専門性 から分析を行い支援に活かせるようにしています。	引き続き、清潔保持を実施すると共に、お子様の成長に合わせて福祉用具を用意できるように取り組みを進めて行きます。
2	事業所内の清潔な環境保持と バリアフリー構造	サービス終了後には、支援に使用した遊具の消毒、床のふき 取り消毒を実施しています。入浴支援では、一人ひとりの入 浴ごとに浴槽を洗剤にて洗い、交差感染（共有の物品からの 感染）を防げるようにしています。事業所内はバリアフリー 構造となっております。浴室に電動ベッドを導入しました。	引き続き、清潔保持を実施すると共に、お子様の成長に合わせて福祉用具を用意できるように取り組みを進めて行きます。
3	電子連絡帳（HUG）を活用したスムーズかつ リアルタイムな情報共有の実現	当事業所では、保護者との連絡手段として電子連絡帳 「HUG」を導入しています。これにより、子どもの様子や体 調の変化、支援内容などをリアルタイムで共有でき、保護者 の安心感や職員間の情報連携の強化につながっています。写 真やコメントの即時共有が可能なため、細やかなコミュニ ケーションが生まれ、より質の高い支援の提供が実現してい ます。	保護者からの声をさらに活かしながら、連絡帳の記録内容の 工夫や返信機能の活用、定期的なフィードバックの仕組みづ くりなどを通じて、より質の高い情報共有と信頼関係の構築 に取り組んでまいります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の災害対応に関する説明について	当事業所では、定期的に災害訓練を実施しておりますが、主 に職員と実施日にご利用しているお子様のみに限られていま した。自己評価アンケートにて保護者様への説明や訓練の周 知が不十分であるとの回答が見られました。一部のお子様 のみの参加であった事、また保護者様にきちんと伝わってい ないことが課題要因と考えています。	災害訓練、その他研修などの実績は「お便り」にて保護者様 に公表できるように取り組みを進めて参ります。また、事業 所内の災害対策だけでなく、保護者様にも対応を周知し、 必要に応じて訓練に参加できるような計画作成に取り組んで 参ります。
2	地域との交流機会の不足について	地域の子どもたちや社会と関わる機会が少ないとの指摘があ りました。お子様同士の社会的な関わりや経験を広げるため にも、地域とのつながりを意識した活動の場づくりが求めら れていると考えています。	お子様に必要な交流の機会は同世代だけではなく、地域の 方々、企業の皆様、社会資源との交流も必要であると考えて います。普段の事業所内利用だけでは関わる事のない世代の 方々や社会資源を活用して楽しく活動ができる機会を増やせ るよう取り組みを進めて参ります。
3	保護者様向けの研修やイベントの開催について	入浴支援以外での保護者やきょうだいを対象とした研修やイ ベントが少ないのご意見を頂いています。家庭内でのケア に役立つ知識や対応方法について、学びや気づきを得られる ような機会が必要であると感じています。ご家庭での困りご とに寄り添い、保護者自身が安心して子育てできるような支 援の場を増やすことが、今後の重要な取り組み課題と考えて います。	勉強会を開催し、日々の育児や介助に役立つ内容を提供して いきたいと考えています。またイベントなどを通じて、ご家 族全体を対象とした支援の場づくりを進めてまいります。希 望に応じた個別面談の実施や、通信・SNSなどを活用した継 続的な情報提供も行うことで、家庭と事業所が連携しながら 子育てを支えていける体制の充実を目指してまいります。